

ショートコメント vol.411 (2026 年 8 月 6 日)

テーマ：企業の在庫状況にみる中東情勢の影響

～全体的には改善傾向も、化学肥料等では在庫減が続く～

●中東情勢による影響の概況

中東情勢による影響については、当初はナフサ等の石油関連製品の不足が懸念されたが、徐々にその不安は薄れつつある。原油の輸入量も一定の回復が進むなど、政府による代替調達なども奏功したことで、影響の中心はコストの上昇へと移ってきた(図表1)。

ただし、品不足の問題についてはまだまだ楽観が許されない。中小企業を中心に、深刻な影響が出ているとの声があることも事実であり、実態の把握が急務となっている。

そこで今回は、企業の業種別の在庫動向から、品不足の状況について判断することとした。

●在庫の減少が目立つ業種

経済産業省の鉱工業生産指数をもとに、石油関連製品の在庫状況をみると、やはり減少が目立つ業種は存在する。特にプラスチック製品と化学肥料などが顕著であり、中東情勢の混乱以降、在庫の減少が続いている(図表2)。

両者で共通するのは、生産量の増加以上に出荷量が大きく伸びている点である。つまり、仕入れの不足によって生産が増やせない中、手持ちの在庫を用いて出荷量を増やす動きがみられる。

プラスチック製品、化学肥料ともに、様々な産業への関わりが深い業種であるが、特に化学肥料は農業分野との関係が大きい。在庫の不足が進むことで、今後の食料生産への悪影響が懸念される状況である。

●在庫減少の緩和

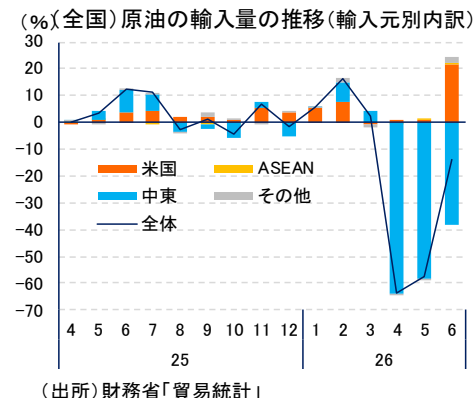
その一方、在庫の減少が解消に向かっている業種も少なくない。

その代表が石油製品や、塗料・印刷インキである(図表3)。これらは一時、在庫の急減に見舞われたものの、その後は大幅に回復しており、ひとまずは品不足の懸念が遠のいている。

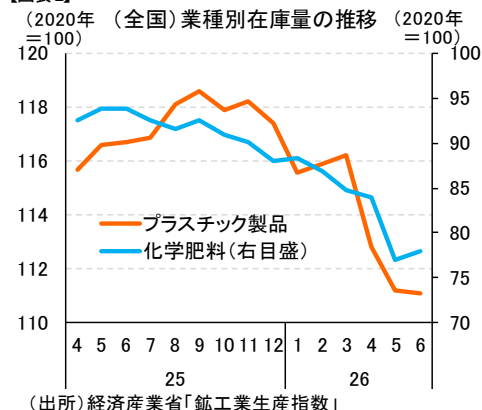
塗料・印刷インキに関しては、菓子メーカーのカルビーが一時、商品パッケージを白黒対応に切り替えたことが話題となったが、7月に入って表面はカラー印刷に戻している。

こうした動きが示すように、品不足の懸念は小さくなってい

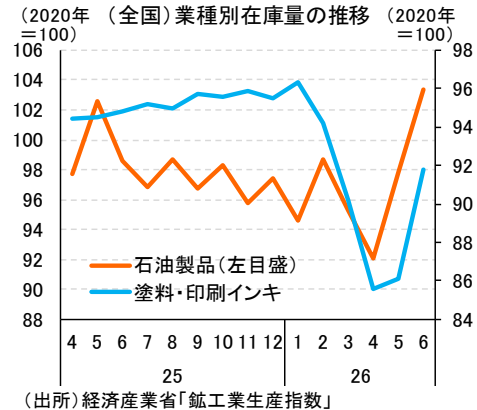
【図表1】



【図表2】



【図表3】



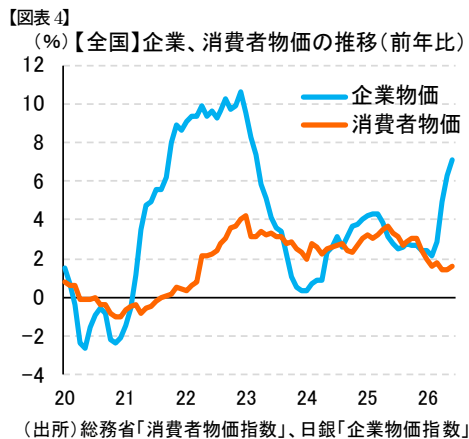
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

るものの、まだまだコストの問題は残っていることから、引き続き楽観は許されない。

●今後の注目点

ここまでの動きをみると、中東情勢による品不足への懸念が全体としては薄れつつあるとはいえ、化学肥料などを中心に、業種別にはまだまだ予断を許さない。さらに、ナフサなどを含め、すでに確保が進んでいるとされる品目についても、中小企業を中心に不足が発生している例もあり、こちらもまだまだ警戒が必要とみられる。

一方、今後の大きな課題である価格転嫁についても、かねてから遅れが指摘されてきた中、今般のコスト高騰分がすんなりと転嫁できるとは考えにくい。企業物価がすでに前年比で7%以上の上昇をみせる中、仮にこの転嫁がうまく進まなければ、収益の悪化は避けられない（図表4）。品不足の問題を含め、中東情勢による影響については、まだまだ目が離せないといえよう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@mri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。